

## 【出題内容】

<早稲田大・理工 傾向と対策> 傾向はほぼ変化がないが、2010よりCT系の問題がビジュアル読解問題に変化。

□ 2008～2014 まで: <53問・全問マーク>

	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008
① 長文 Text I (長め)	内容9 空所補充1	内容9 語義1	語義2 タイトル1 内容7	語義2 アウトライン1 内容7	語義2 アウトライン1 内容7	語義1指1 アウトライン1 内容7	指示語2 アウトライン1 タイトル1 内容8	語彙1指1 タイトル1 内容7	タイトル1 内容10
長文 Text II (短い)	Logical 3	内容3	内容2	内容2	内容2	内容3	内容1	内容3	内容2
長文 Text III (短い)	Logical 2	内容2	内容3	内容3	内容3	内容2	内容2	内容2	内容2
② 整序問題(長文中)	5題	5題	5題	5題	5題	5題	4題	5題	5題
③ 空所補充:文法・DMなど	6題	6題	6題	6題	6題	6題	6題	6題	6題
文整序+段落整序	5文5段落	5文・5短絡	5文・5段落	5文・5段落	5文・5段落	5文・5段落	4文・5段落	6文・4段落	5文・4段落
④ 長文(3パラ程度):内容	内容5	内容5	内容5	内容5	内容5	内容5	内容5	CT 5	空所補充5
ビジュアル読解問題	グラフ5	グラフ5	グラフ5	図形5	グラフ5	数式5	表など5	表5	CTなど5
⑤ 語彙:語義・語法など	15題	15題	15題	15題	15題	15題	15題	15題	15題

慶應大・理工と比べると標準レベルを超える問題の出題が多く、「早稲田・理工は英語で差をつけたくないのでは?」と思える程難しい。これは最近始まったことではなく、伝統的に英語の問題のレベルは高いので今後も難易度が変化するとは考えにくく、早稲田大・理工を受験する人はそれないの覚悟と戦術を持って臨むべきだろう。

合格者平均点は公表されていないが、合格者最低ラインは各学科によって異なるが、187～224/360: 51.9%～62.2%。(2014 データ: 経営システム工学科～物理学科)なので、英語は苦手でも55%前後、得意なら70%を目指して取り組む必要がある。英語がどんなに得意でも他の受験生に決定的なアドバンテージをつける程の高得点は難しいので、数理がそれなりに得意でなければ合格は難しい。

### 他学部・他大学の問題との相関

②の整序問題(長文中)は形式は早稲田大・政経と似ているが、難易度は理工がはるかに上。理系の文章なので書いてある理系の知識があって文章を理解できないと難しい問題もある。時間をかけすぎないことが大切。

⑤⑥の語彙問題は慶応大・法と似た形式だが、難易度はほぼ同レベル。中には相当難易度の高いものもあるがそうした問題には時間をかけず「捨て問」とし、標準的なものを確実に取るのが基本戦術となる。日頃の単語テストへの取り組みが重要。

**得点源にすべきは、①③④の長文読解問題。パラグラフ単位の読解問題は確実に消去法で正答率を上げておきたい。文整序や段落整序も慶應・法の難解なインタビュー問題ほど難しくないので落ち着いて解答したい。ただ、文章はそれなり高いレベルの背景知識がないと読めない、理系だからといって国語の学習を疎かにしていると読解力が追い付かないので注意。また理系の基本的な知識を前提としている英文の出題もある。**

## 早稲田大・理工 勝利の方程式

- ① 整序問題・語彙問題の難問には時間をかけず、長文問題で確実に得点を稼ぐ。
- ② 受験生レベルは東大の滑り止め＋私学理系最高峰。慶應・理とともに高いので多少問題が難しくても、それほど平均点・合格ラインも下がらないので「落としてはいけない問題」を確実に取ることが必要。
- ③ 速読力など不要。長文の長さもそれほどではない。ただし、内容理解を確認する問題を能率的に解く工夫(段落ごとのメモなど)や、理系分野の背景知識も必要。
- ④ 早稲田は3教科バランスが勝負！英語だけ得意では勝負出来ない！
- ⑤ 英語が得意なら最低でも7割以上、苦手でも5.5割前後は欲しい。